

SEEDS



知床財団

SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

No.242

2019 /

夏号

自然特集
森と人、
知床の記憶

活動レポート

知床自然教室 40年の歴史

今津秀邦 いのちのフレーム第2回

知床・人・インタビュー第38回

赤澤茂蔵さん

スタッフの本棚 第25回

青年海外協力隊がつくる日本

知床財団購買部

知床財団×PHENIXオリジナルTシャツ2019

知床自然教室 40年の歴史

この夏、知床自然教室は40回目を迎えます。しれとこ100平方メートル運動が始まった1977年の3年後に初開催された自然教室は、知床の自然やこの運動を次の世代の子どもたちへ伝えていくために今も続いています。これまでに自然教室に参加した子どもたちはのべ1900人にもなります。

私たち知床財団は当運動の現地業務を担う中で自然教室の運営にも長年携わってきました。今回は、知床財団スタッフであり自然教室の卒業生でもある二人の体験を通して、これまでの40年間の歩みを振り返ります。

松林 良太

自然復元担当。誰よりも森づくりと自然教室に携わってきた。二児の父。

片山 綾

インフォメーション担当。自然教室で培った思いや知識を発信している。一児の母。



電気柵で囲まれたテントサイト

クマとのつきあい方

野外キャンプが始まった1980年代中頃は、ヒグマが人前に出てくることはめったになかったこともあり、いわゆる普通のキャンプスタイルでした。

しかし、1990年代になると人を避けずに行動するクマが目につくようになり、北米の国立公園並みのクマ対策を実践するようになりました。テントとかまどはそれぞれ完全に場所を離し、食料の保管も車の中やクマの手が届かないようにフードハンガーに吊るすなど、クマを誘引する食料を完全に分離するスタイルへ。2008年からは、テントサイトを電気柵で囲うようになりました。クマに出くわさないために、どこに行くにもホイホイの掛け声は必須。おそらくここまでしているキャンプは国内では他にないでしょう。



変わったこと

キャンプ道具

野菜を切るのはベニヤ板からまな板になり、湯を沸かすのはトマト缶からやかんになりました。飲み水についてはこれまで沢水を

沸かして使っていましたが、最近では沢水をろ過する浄水器も導入しています。

当時はトマト缶で湯を沸かしていた



浄水器で沢水をろ過



フードハンガー

食べ物を蓋付きバケツに入れて高い位置に吊るす



変わらないこと

野外生活

第5回から始まった野外キャンプは今も続いています。電気も水道もない「ボンホロ」を舞台に、知床の自然の中で子どもたちは、テントを立て、かまどを作り、水を汲む、そんな生活の全てを自分たちの手でやり遂げます。自然の中で生き抜く術は、いつの時代も変わることはありません。



ナイフは野外での大事な道具

参加する子どもたち

自然が好きで目を輝かせる子どももいれば、虫も触れず、ホームシックになる子どももいます。それは、いつの時代も変わりません。しかし、どんな子どもも数日もすれば自然教室の生活に慣れ、日常として過ごすようになっていきます。子どもたちの適応する力は、今も昔も変わっていないのかもしれませんが。



2019

第40回



松林が隊長を退き、後任へ引継ぐ！
自然教室40周年「知床への帰郷」開催（10月）

2017

第38回



100平方メートル運動40周年

2009

第30回



自然教室30周年「知床への帰郷」開催（9月）

2008

第29回



テントサイトを囲う電気柵を導入

2007

第28回



100平方メートル運動30周年
松林が自然教室の隊長となる。

2005

第26回



松林（30）が知床財団に就職。運営する立場で自然教室に携わり始める。（知床が世界遺産登録）

2004

第25回



片山（23）が知床財団に就職。運営する立場で自然教室に携わり始める。

2003

第24回



自然トピアから知床財団へ。
松林（28）がボランティアとして自然教室に参加

2002

第23回



知床財団が知床自然教室の運営主体となる



釧路フェリー航路廃止。飛行機利用開始。募集を全国に。プログラムに森づくり作業が加わる

1997

第18回



100平方メートル運動の森・トラスト開始

1993

第14回



フードハンガーなどを導入し、食料やごみ管理など本格的なヒグマ対策を実践

1992

第13回



片山（小5）初参加！

1989

第10回



関西からの参加者の募集を開始

1988

第9回



自然トピアしれとこ管理財団設立（現…知床財団）

1986

第6回



知床国有林伐採問題

松林（小4）初参加！

1984

第5回



野外キャンプを開始。テント泊などの自然体験が以降の自然教室の基礎となる。

1981

第2回



地元斜里町からの参加者の募集を開始

1980

第1回



知床自然教室スタート（関東参加者のみ）。自然観察や調査が中心だった。

1977



しれとこ100平方メートル運動スタート

松林良太に聞いてみました！

初めて参加した時、ビックリしたことは？

全てです。小学4年生の自分にとって、そもそも10日間も親元を離れたこともなく、見知らぬ集団に加わるのも初めての経験。また、テントで寝たこともなく、風呂に入れないことや地面に掘った穴が便所であることなど全てが驚きの連続でした。

参加して変わりましたか？

野外生活はたった数日間でしたが、何かの達成感と自信が芽生えた気がします。自然教室から帰ってみると、街の生活がぬるく感じ、次の自然教室までの1年間がたいくつで長く感じていた記憶があります。

今ここで働いている自分をどう思いますか？

知床好きの親が勝手に申し込んだのが参加のきっかけなので、結局親の手の中に今もいる気分はしています。ただ、親孝行にはなっているかと思っています。

あなたにとって自然教室とは？

自分にとっては人生を決められた体験になりました。自分の場合は極端ですが、今の子ども達にとっては、時々でも知床を思い出してくれるきっかけの体験になってくれれば嬉しいです。自然教室を通して世代を超えて共通の話ができることはすごいこと。これも知床の自然あってこそなので、これからも次世代につなげていきたいと思っています。

インフォメーション担当の

片山綾に聞いてみました！

ビックリしたことは？

飲み水は全て川から汲み、食器も洗えないことです。食器はトレットペーパーで拭うだけ。カレーライスの日にはペーパーがもつたないから、パンで拭いて食べろと言われました。また、初日には女子だけが集められて「月経血はクマを誘引する可能性があるから使用済みのナプキンとトレットペーパーは毎日回収するよ」と説明され、それも衝撃的でした。

参加して変わりましたか？

普段の生活の便利さに気づくと同時に、自分の力で暮らすことの大変さや皆と協力することの大切さに気付きました。そして自然の中に入っていく際の心構や知識もここで学んだと思っています。

あなたにとって自然教室とは？

私を育ててくれた場所、そして熱い思いが集まる場所だと思います。以前、「知床自然教室は、環境教育の成功例ですね」と言っていたことがありました。

知床の森で一週間生活するということは、圧倒的な原体験の場になっています。そして子供たちが親の立場になった時、当たり前のように伝えることができるような気がします。

松林が選ぶ、これぞ知床自然教室 BEST 5

～時代を超えて知床で体験すること～



1 班・仲間

班の仲間と過ごす野外生活の数日間は自然教室を語る上では欠かせません。この体験こそが自然教室です。



2 歌

「いただきます」「ごちそうさま」の歌から「知床旅情」まで、自然教室中は知床の森の中に子どもたちの歌声が響き渡ります。



3 雨

大雨に当たることももちろんあります。ただし、今のところどんな大雨でも野外キャンプを撤退したことはありません。



4 バーベキュー・キャンプファイヤー

最後の締めは、ウトロに戻ってからバーベキューとキャンプファイヤー。これが終わると自然教室もあと1日です。



5 別れ

同じ仲間と過ごす自然教室は一度きり。閉校式では、あちらこちらで涙が見えます。そんな出会いと別れを40年繰り返してきました。



五右衛門風呂サイコー！

お風呂は野外最終日だけ

40年という時が経ち、かつての開拓跡地では森づくりが進み、自然教室の舞台となるボンホロの様相も変わり、人とクマのつきあい方も変わってきました。

そういった変化の中にあっても、知床自然教室は脈々と途切れることなく続いてきました。子ども達はヒグマが暮らす森の中で1週間寝泊まりし、

森のこと、動物のこと、自然の中の生き方を学びます。その自然教室スピリッツを受け継いだ松林や片山が今こうして知床で働いているように、一人一人の子ども達の中に「知床」を残せる自然教室をこれから先も続けていきたいと思っています。

植樹祭

知床アウトドアフィルムフェス2019

第23回 しれとこ森の集い

- 2019年10月20日(日)
- 9:00～11:30
- 知床自然センター集合
- 参加費無料
- ※無料送迎バスの運行あり



上記イベントの詳細は、同封のチラシをご覧ください！



第39回知床自然教室(2018)

知床自然教室40周年記念イベント 知床への回帰

10/18(金) ～21(月)



7月の支部ワークキャンプでツリーデッキ1基目作りました！

- 参加費：～15,000円
- ※参加日数により金額が異なります。
- 対象：自然教室OB/OG
- 100平米運動関係者
- 定員：50名
- 締切：8/30

